

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ひなぎく)

事業所番号	0691500060		
法人名	社会福祉法人 長井弘徳会		
事業所名	グループホームリバーヒル長井館町		
所在地	山形県長井市館町南9-72-10		
自己評価作成日	平成 30年 3月 29日	開設年月日	平成 26年 6月 2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

活気あふれる商業施設が立ち並ぶ地域の中に当事業所があり、近隣のスーパーへ利用者の方と買い物に出掛けるなど地域の方々と関わりが持てるように配慮しております。また、隣接する地域密着型特養・母体介護老人保健施設へ外出したり、ホームに隣接する事業所の職員や地域の方と朝の挨拶などを行い交流を図っております。
各ユニットには菜園があり、その成長を一緒に眺めたり手入れをしながら会話を楽しみ、収穫した野菜を一緒に調理しながら季節を感じて頂けるように関わりを持っております。
テレビ体操やリハビリ体操を毎日取り入れ健康維持に努め、カンファレンスやケア検討会議等ではその方の思いや願いを汲み取り、そしてその思いや願いを大事にしながら利用者皆さんが生き生きとした生活を送ることが出来るよう支援しております。
法人内5棟のグループホームがあり合同で研修会を行いスキルアップに努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※ 1ユニット目に記載

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成30年 4月 24日	評価結果決定日	平成 30年 5月 10日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム設立時職員の思いや考えをまとめた理念を事業所内に掲示し、年に1度理念の見直しを行い自分達の目指すケアの確認を行っている。各個人のネームの裏に挟みケアの方向性に迷ったりした時には理念を確認し本人に寄り添ったケアや理念に繋がる様になっている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の子供会主催の廃品回収では古紙を提供している。また地元神社例大祭では、黒獅子と共に子供神輿もホーム前まで来て頂きご祈祷して頂いていた。職員のみでの参加であったが、さいとう焼き、神社の清掃、地域防災訓練への参加、また、傾聴ボランティアや保育園児の慰問の受け入れ、年末の餅つきには地域の方を招いて開催している。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム運営推進会議にて利用者との関わり方や毎日の生活の様子をお伝えし、また、受診の付き添いや一緒にスーパーへの買い物などの外出時には自分達の対応の仕方から支援の在り方を地域の方に理解して頂けるように働き掛けている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、地域の代表、家族代表を委員構成とし、2ヶ月に1度開催している。事業所の報告と共にグループホーム運営に対する意見、要望、アドバイスを頂いている。また、地域代表や家族代表、事務局から市への質問や意見などを頂く等、双方向的な会議を行っている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターへ出向している法人職員を介したり運営推進会議の中で市職員からの介護情報の動向や他事業所の情報を教えて頂いている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	職員更衣室内に身体拘束の具体例を示した資料を掲示し、常に一人ひとりが理解し意識付け出来るように啓蒙している。利用者に対しては、スタッフ会議でも理念に添ったケアや本人らしく生活されているか検討し声がけの仕方や関わり方を工夫したり、外出の際には付き添い支援を行い安全に過ごす事が出来る様に配慮をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修を受講した職員がスタッフ会議の中で伝達研修を行い、参加できなかった職員には資料を配布し、職員全員が理解を深められるように工夫をしている。また、日頃の利用者の介護にあたり、気づいた事や悩みがあれば相談しやすい職場の環境作りを心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関する研修は今年度実施する機会がなかった。次年度には、是非学習する機会を設け、職員が知識を習得する事でスキルアップが図れるように努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には、必ず契約書と重要事項説明書の説明を家族に行い署名と捺印を頂いている。又、変更があった際は事前にお電話をした上で家族とゆっくりお話できる場を設け説明を行っている。ご家族からの質問などにも十分納得して頂ける返答ができるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年3回家族を招いての行事や受診、面会などの訪問時には、何気ない会話の中からご家族の意向や要望等を把握し運営に反映している。運営推進会議には家族代表の方に参加して頂き、質問、要望、意見を自由に提案できるよう配慮している。また、ホーム内に意見箱を設置し言葉に出来ない思いを投書して頂けるよう準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議、グループ会議を行い意見や提案に対しての話し合いを行い、職員間で互いに内容を確認しあって運営に反映出来るように努めている。代表者には、エリア部長を通して職員の意見や提案を伝達してもらっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	所属長と個別での面談を行い、又、随時ケアに対しての相談や悩み等を聞き職員の状況を確認している。職員の努力や実績等を把握し各自が向上心を持って働く事が出来、職員間で意見交換が出来るような働きやすい環境作りに努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修会、グループホーム合同研修会、スタッフ会議でケース検討会を行ったり毎日の業務の中でその方の困り事を一緒に考え、介護計画作成時には計画作成担当者から担当職員に対して「見る視点」などを伝えたり、OJTを活用した人材育成に取り組んだ。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形県グループホーム協議会置賜ブロック会に参加し、他事業所との交流を交えながら交換実習や会議への参加を行っている。法人内5棟のグループホームでも互いにレベルアップに繋がるよう定期的に学習会を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の申込みを受け自宅や施設等へ事前訪問し、お話を伺い本人の困っている事や要望を把握している。本人の言葉、意思を大切にし一つでも不安が取り除いて安心して頂けるよう耳を傾けている。グループホームの見学も行っており、不安解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から相談を受ける際には、自由にお話しが出来る環境の設定を行っている。また、ご家族の思いを大切に、困っている事や要望に耳を傾け今後の方向性について一緒に考え良い関係が作れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用する段階で、本人と家族が最も良い支援を受ける事が出来るよう必要な支援は何かを考えサービスの提供に努めている。今後は、居宅ケアマネジャー等在宅生活中に関わりを持っていた方からの情報を得て、本人や家族の思いを確認できるような関係性を築いていきたいと考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人や家族から事前の情報を元に本人らしく日常生活に楽しみを持って生活を送ることが出来るよう心掛けている。利用者から昔の話を伺ったり、調理の仕方を教わったりしながら共に過ごしている。利用者の表情や気遣いの言葉、行動に感動や元気を頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時には常に状況を伝え、必要時には電話での連絡を行い情報交換を行っている。来訪時には居室やフロアでゆっくりと過ごせる様に配慮している。又、年4回季刊誌発行の際には、近況の様子も併せてお伝えしている。利用者の立場となって家族と一緒に考えながらお互いの理解に努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方の来訪時は、ゆっくりとお話し出来る様に配慮している。また、行きつけの美容室へはご家族の協力を得ながら外出を行っている。馴染みの方や場所を大切に考え関係性が途切れないよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者とは穏やかに日常生活が過ごせる様に環境づくりに配慮している。利用者同士が一緒にお茶を飲んだり、作業をする事で孤立を防ぎ関係性が円滑になるように見守りや声掛けを行っている。また、1人の時間も大切に出来るよう本人の希望を聴きながら環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方へお見舞いに行き利用者との関係性が継続できるように努めている。今後の方向性等主治医との面談の際は、家族と一緒に参加し利用者や家族の思いが尊重出来るように相談に応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のC-1-2のシートを活用。スタッフ全員でC-1-2シートを記入する事でたくさんの視点からその方の思いや願いに気づけるように努めている。また、日々の何気ない言動や表情からも利用者の思いに寄り添う事が出来るようスタッフ全員で情報共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前訪問の際、お話しを伺ったり事前にセンター方式シートへの記入をお願いしている。今までの生活歴、環境、習慣などをスタッフ全員で情報共有出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方を尊重するよう努めている。利用者のその時の心身状態に合わせた関わり方が出来るよう工夫し、一緒に作業を行いながら出来る能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を活用している。スタッフ全員でC-1-2シートへの記入を行い入居者の希望、家族の希望を事前に確認しプランを作成している。3ヶ月毎のモニタリングを行い現状に添ったプランかを定期的に検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施状況、入居者の言動や行動をありのままに記録に残し、スタッフ間で情報を共有している。アセスメントの際は、記録の言動や行動から思いを汲み取ってプランに反映させている。		
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員の方の協力を得て年末に餅つき会をおこなった。一緒に食事をする事で外部の様子をお聞きしたり楽しく過ごす事が出来た。また、傾聴ボランティアを受け入れ外部の方とお話しをする事で、それぞれが気分転換や楽しい時間を過ごす事が出来るよう支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は必ず連絡表を作成し日頃の生活の様子や心身の状態を報告しておりかかりつけ医からは診察の結果や指示、アドバイス等を頂いている。受診時はご家族様へご協力を頂いているが、不可能な場合は職員が代行を行っている。受診先は利用者や家族希望のかかりつけ医となっている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人の看護師が医療連携看護師となっており、日頃の健康管理と医療面での相談とアドバイス、対応を行っている。緊急時や状態の大きな変化時には、かかりつけ医と連絡をとりながら救急医療との連携を図っている。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合には、利用者の必要な情報を医療機関に提供している。入院中の利用者に関する情報については、ご家族から連絡や直接医療機関へ訪問するなどして情報を得ている。今年度退院しホームへ戻ってこられた方はおられないが、退院される際には、医療機関等でのカンファレンスに参加して相互に不安なく過ごせる様に話し合いをもっている。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	現在の所看取り対象者はいない。今後、利用者や家族の希望等を確認してその様な状態になった際には、スムーズな対応が出来るよう研修会の実施と指針の確認を行っていきたい。入居時には、重度化の指針を家族と一緒に確認し署名も頂いている。		
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに基づき事業所独自で1～2ヶ月に1度訓練を実施し、実践力を身につけられるように努めている。また、緊急搬送のマニュアルや症状別対応表をすぐに確認できる場所に置いたり明示している。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し消防署指導のもと年に2度火災訓練を行っている。運営推進会議の中で火災避難訓練を行ったり、事業所独自でも訓練を行い災害時に備え水、食料品等の備蓄もおこなっている。地域の防災訓練には、エリア内の他事業所職員と共に参加をした。参加出来なかった職員には、後日伝達研修を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に人生の先輩である事を念頭におき、利用者の立場になって尊厳や誇りに傷をつけない言葉掛けや接し方を行っている。職員間で、お一人おひとりの今までの生活歴を共有し利用者の思いに寄り添って安心して生活出来る声掛けの仕方や人格を尊重した関わり方を心掛けている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者それぞれが主体となる生活で、職員は利用者の思いや願いを汲み取れるよう傾聴し、利用者は自分で決めた物事を行う事が出来るよう配慮している。常に利用者が、気兼ねなく自己決定が出来る関わりに努めている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日のスケジュールはあるも、一人ひとりの生活リズムやその日の過ごし方の希望または、体調に配慮した個性の支援をおこなっている。外出の希望がある時には、ホームの状況を考慮しながら付き添ったり、読書や裁縫等ゆっくり静かな環境で行えるよ環境づくりに努めている。そのひとらしい過ごし方が出来るよう支援している。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室があれば家族と一緒に出かけたり、月に1度ホームに来る理容室では利用者の希望で散髪や顔剃り等を行っている。常に自分でひげ剃りをされる方が剃り残し等があった際には、職員がお手伝いを行っている。女性の方で、化粧の習慣がある方は、化粧品を持参して頂き身だしなみを整えて頂く配慮をしている。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りでは、男女共に分担作業をされ女性だけでなく男性も交えて調理作業を行っている。盛り付けの時も2人で行い、見栄え良く仕上がっている。一人ひとりの楽しむ能力を活かしながら、食事を楽しむ環境づくりが出来ている。食事提供は量や固さに配慮し代替えを準備したり嗜好に添えるように工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に1度体重測定をし体重の減少が著しい方や体調不良にて栄養や水分確保の必要な方にはチェック表を用いて状態の把握に努めている。一人ひとりの摂取量や嗜好に合わせ代替え品を準備したり、食べられる食形態で提供し確実に栄養が摂れるような対応をしている。状態に合わせて主治医へ相談助言を頂いている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけを行い、夕食後は義歯を外し就寝して頂いている。週2回の洗浄剤を使用して義歯消毒も行っている。口腔内に異常があれば、家族に連絡をし必要時は歯科受診に繋がっている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄時間帯をチェックし、記録や申し送りにより一人ひとりの排泄パターンをチェックしている。自立していても失禁の見られる方には、自尊心を傷つけないように声掛けを工夫し対応している。定時に確認と声かけ誘導を行い、介助が必要な方には残存機能を活かした介助を行っている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、決まった時間に体操を行い少しでも身体を動かす様に心掛けている。お茶会やお食事の際には水分を少しでも多く摂って頂けるようにポットや急須にお茶を準備しいつでも自由に飲めるよう配慮している。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日をカレンダーに記入したり、当日に前もって時間をお知らせする声掛けを行い実施している。一人ひとり入浴時間の希望やお湯加減等が異なる為、気持ちよく入浴して頂けるように配慮している。入浴する時間や日にちがその時々で変わると混乱される方もおり、予め曜日は決め混乱の無いように対応している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、天候に応じ居室内のカーテンで光を遮ったり定時で居室内の湿温をチェックし快適に過ごせるよう空調を調整している。夜間または午睡時に眠れず起きて来られる方には、ゆっくりとお話を伺う等して一人ひとりの精神状態に合わせて安心して休む事が出来るよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には、薬一覧表で個数を確認し利用者にも袋に記載の名前を確認して頂いている。全員の内服が終了後は飲み忘れを防止する為、他の職員と2人で二重チェックを行っている。薬の処方に変更があった際には、記録を残し職員間での情報共有に努めている。薬を準備時には職員2名で処方箋を確認しながら行い誤薬防止に努めている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑での野菜づくりには、利用者の経験やアドバイスを頂き得意分野を發揮しながら楽しんで行う事が出来た。収穫後も、調理方法を相談し昔ながらの料理を懐かしみながら行う事が出来た。法人内の図書の出出しへ出掛けたり、隣接する他事業所へ友人に面会に行く、作品や季節の展示品を見学に出掛ける機会をもち、季節を感じたり気分転換に繋げる事が出来た。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候やその日の状況を見ながら、出来る限り利用者の希望に添えるように買い物や法人の行事参加等出来るだけ希望に添った外出支援を行っている。また、グループホームの季節の行事での外出で個々の関わりやご家族の協力のもとでの外出する事で利用者の希望に添った楽しみや気分転換に繋げている。			
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理が出来る方は外出行事の際等、職員が見守りをしながらお好きなものを自分で選んで購入したりされた。選んだり購入される際にも利用者の意思決定を尊重しながら購入する事が出来た。金銭のやりとりで入居者間でのトラブルがないよう職員が目配りをしている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、電話をお掛けしてお話が出来るよう支援を行っている。本人自らが掛けられる方は居ない。但し、携帯電話を持参の方で着信音が聞こえず分からない方には、さり気なく声掛けをしお話が出来るよう支援している。また、毎年正月には家族や知人に年賀状を送って以前からの関係性が途切れないよう支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、利用者が心地良い空間で生活できるよう温度湿管理を行い冬季間はフロアと各居室に加湿器を置湿度を保っている。起床時には、朝の日差しが感じられるようにカーテンを開け、日中は日差しが強い為、閉めるなどして適度な光が差し込むように配慮している。季節の花や利用者と一緒に装飾物等を作成し飾る事で季節感を感じられるように工夫している。			
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室スペースに円卓や座布団を置き、自由にくつろげるようにしている。キッチン前に、昇降テーブルを設置し調理時にはキッチン内の職員と会話を楽しみながら作業や味見、盛り付け作業をして頂いている。常に過ごす食席は利用者同士の関係性を考慮し誰もが居心地よく過ごせるよう配慮している。定期的に席替えを行う事で、利用者間の交流を深め楽しんで頂けるよう心掛けている。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が、在宅時使用されていた馴染みの物を持参して頂き自宅同様にくつろいで心地よく過ごせるよう空間づくりを工夫している。家族の写真や利用者本人が作った作品等の思い出の品を飾ったりしている。			
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホウキ、ちりとり等の掃除道具は、利用者が分かる場所に設置しいつでも作業が行えるようにしている。昇降テーブルもその方の体型に合わせる事が可能な為、高さを調整し調理作業や食器拭きを行っている。居室のドアに名札を明示したり、居室毎にカーテンの配色を変えるなどで個々の居室の違いを認識しやすいように工夫している。			